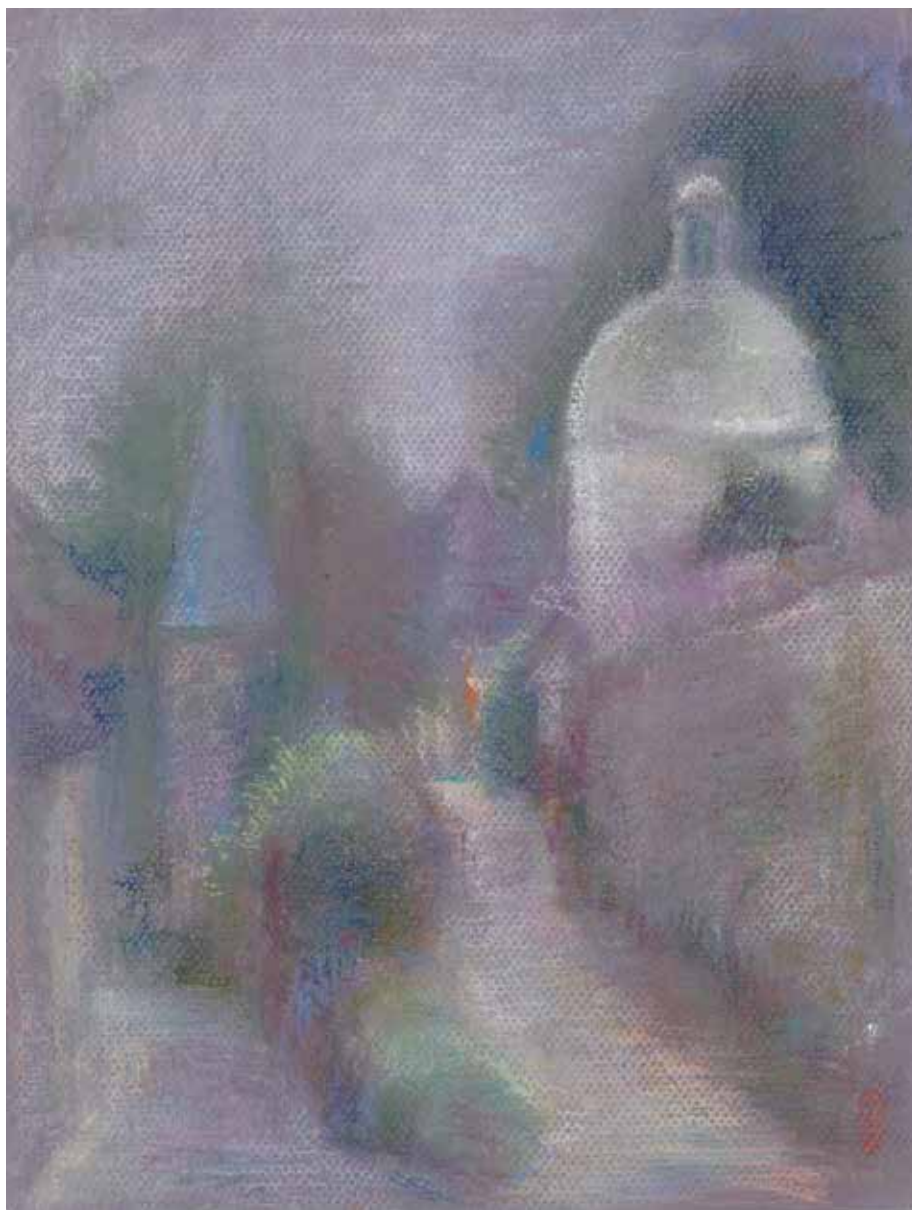


不二

中高版

11

2021



令和三年度第2回昇格・昇段試験成績発表

備中松山城
びっちゅうまつやまじょう

備中松山城

署名では姓名を記す

(解説は17ページ)

小久保嶺石先生書

鳴釜神事
なるかましんじ

鳴釜神事

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

習藝齋
しゅうげいさい

習白
藝云

署名では姓名を記す

（解説は18ページ）

小久保嶺石先生書

かな半紙 (誌友～五段)

課題は段級別です。ご注意ください。

秀歌之體大略

(筆者) 近衛家熙 (一六六七～一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)

山河耳風の可介多る志可ら美盤な可れもあへぬ紅葉成希理

『古今和歌集』303 春道列樹

(解説は18ページ)

短冊について

鎌倉末期頃より和歌をし
たためる書式として広まり
ました。横約6cm、縦約
36・5cmの大きさで全懷紙
をたてに八等分した大きさ
です。短冊には上下があり、
雲・霞形は広いほうが、濃
淡は濃いほうが、着色が異
なる場合には色の濃いほう
が上といったもので、練習
用紙ならば、糊付けされて
いる方が上になります。

書式

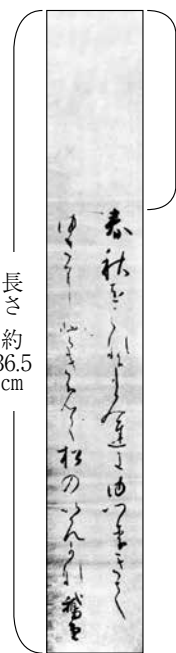
伝統的な書式

- 短冊の上部を1／3または1／4空け、歌を書き始める。
- 墨継ぎは和歌の場合、第一句・三句・五句で行う。
- 下部が詰まり過ぎないよう、少し空けるとよいでしょう。

提出用紙—やや薄手の短冊練習用紙。

二つ折にて郵送できるもの。

余白 上部をおよそ1／4 (約9cm) またはおよそ1／3 (約12cm) 空ける



長さ 約36.5cm

幅 約6cm

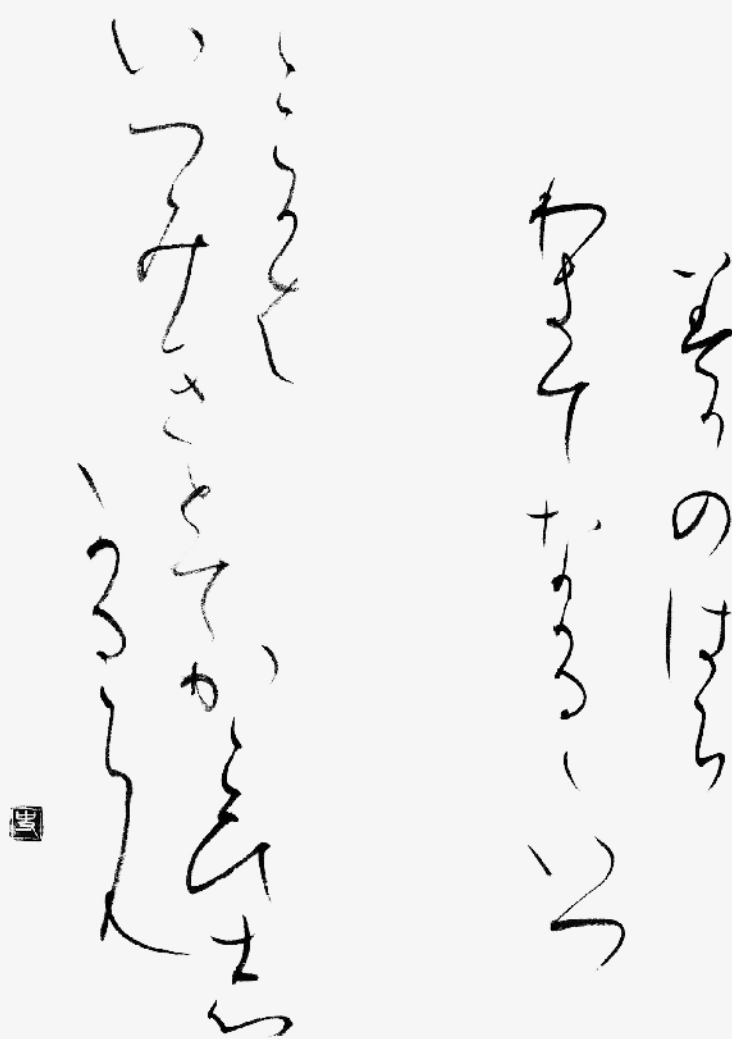
かな半紙 (四段～初段)

課題は段級別です。ご注意ください。

美^み可^かのはらわ^わ支^きてな^な可^が留^る、いつ三^み可^が者^はいつみきとてかこひ志^し可^か留^るら无^む

署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

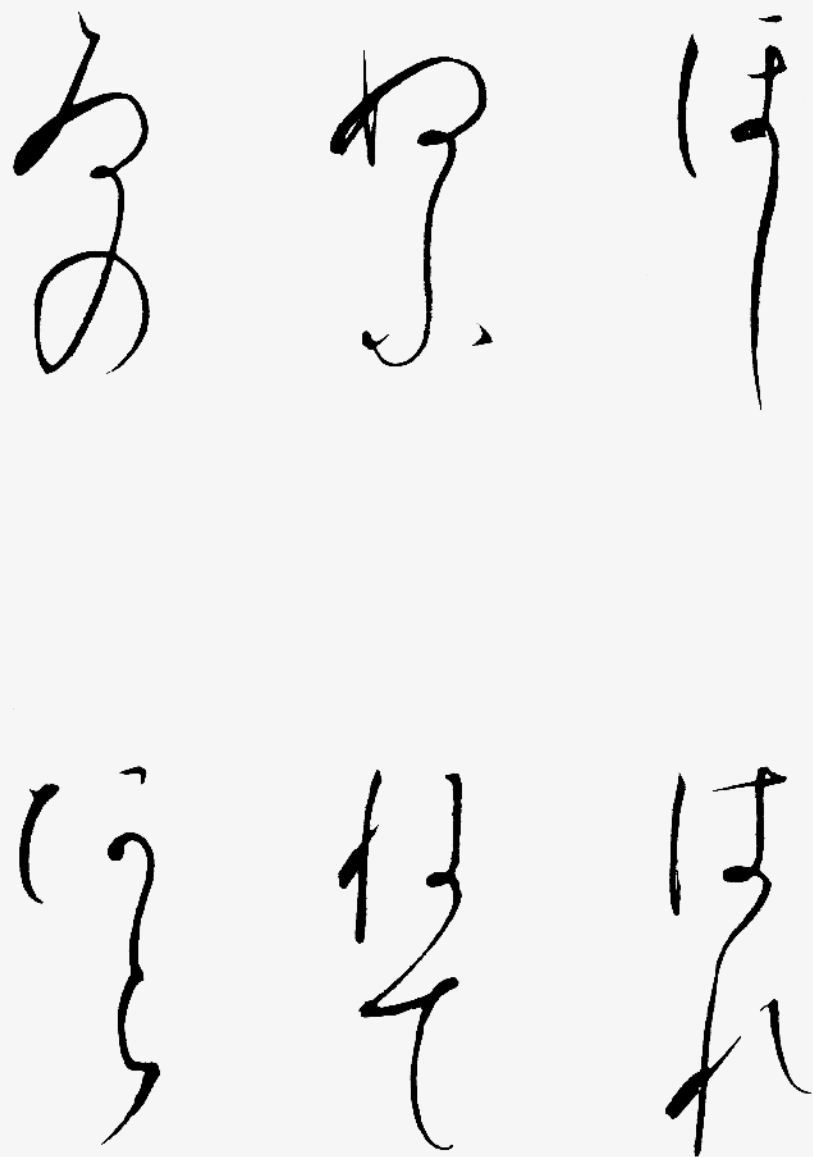


川島史子先生書

かな半紙（1級～10級）

課題は段級別です。ご注意ください。

ほし
はれ
ぬふ
ねて
ゐの
阿ら



署名では姓名を記す

（解説は20ページ）

安東聖空書「梅雪かな帖」より

扁額の書をつくる（誌友／初段）課題は段級別です。ご注意ください。

課題 横額「強記」（博覧強記）

〈解説〉
 強記：書き留めて残すこと。

「博覧強記」とは、古今東西の書物を読みその知識を蓄え、見識を豊かにすること。

毎月皆さんの出品作品からは、墨を上手に使い、臍下丹田に重心を置き、腋を開き、鋒先を活躍させて制作している姿が見えます。今では、横額作品にも徐々に慣れて、楽しみながら書いている様子が窺えるようになりました。しかし未だ、紙面いっぱい、墨量過多、といった作品も多く見受けられます。手本の墨量、余白を参考にして黒白の割合具合を研究しましょう。また落款の入れ方等様式も参考にしてください。

「弓」偏の書き方のリズム、「フ」此処を覚えるとグンと書きよくなります。

「言」偏では「一」と「く」と「マ」片仮名の「マ」のように書く辺りも試みましょう。

〈用具・用材〉

筆＝永晶大号條幅

墨＝一味真

紙＝雅箋紙半切不二

（用紙 画仙紙半切 1/2） 石橋 鯉城 先生 書



※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

月別出品券とバーコード出品券の貼り方

落款 教室名 段氏名 額	㊦	㊦ 教室名 段氏名 額
	㊧	㊧ 月別出品券
	㊨	㊨ バーコード出品券

漢字条幅 (1級～10級)

課題は段級別です。ご注意ください。

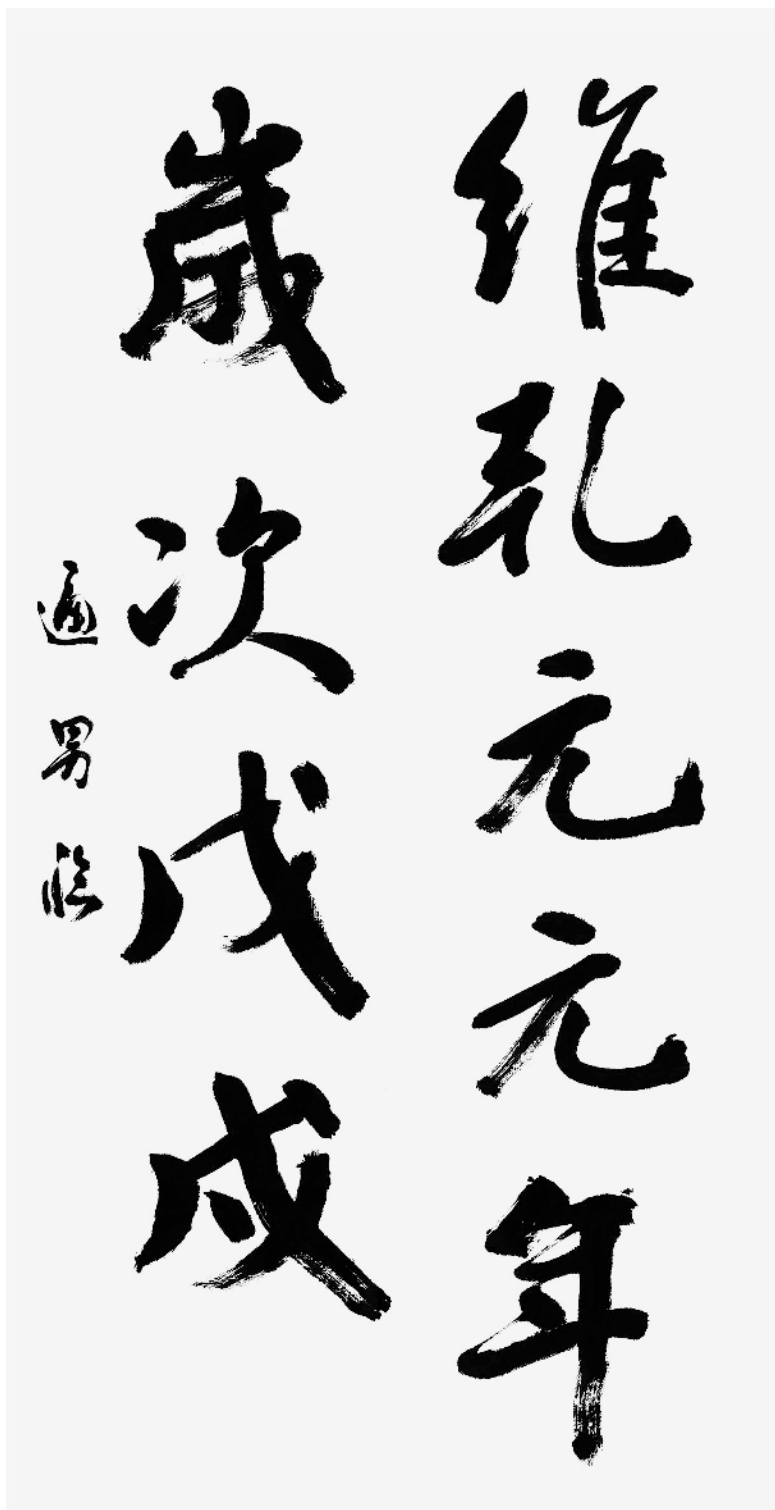
さいてつぶんこう
祭姪文稿

がんしんけい
顔真卿

(七〇九～七八五)



これけんげんがねんさいじほじゅつ
維乾元元年歲次戊戌



卒意書 (率意とも書く)

字を書く際に、制作意図を持たずに心のままに作品を書きあげたものを「卒意の書」といいます。祭姪文稿のような原稿や、日記、手紙などはこれに当たります。反対に意思が働くものを「作意の書」あるいは「経意の書」と呼ぶことがあります。

(解説は19ページ)

小久保嶺石先生書

(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)

かな条幅 (誌友 10 級)

須山万寿先生書



あまの水人農免さめ尔石はし流

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm x よこ 35 cm)

〈読み〉 秋の水 人の目ざめに 石はしる

〈作者〉 大谷碧雲居(一八八五〜一九五二)

岡山県津山市生。

〈大意〉 目覚めると川瀬の音が涼々として聞こえる。窓をあければ冷や、かな空気が流れ込み、秋の深まりを感じる。

〈解説〉

○書き出しの「あまの水人」はゆったりと書き、人の下の「農」は人の真下に書かず左に外し流れに変化をもたせます。「農免さめ尔」をや、密に書きます。

○二行目はすっきりと書き収めるとよいでしょう。

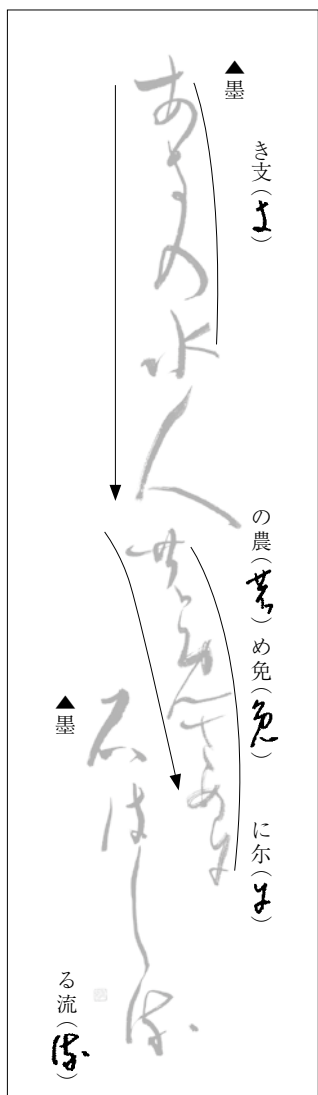
〈用具・用材〉

筆 羊毛筆

墨 和墨

紙 かな用加工紙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



新 和 様 (八段、初段)

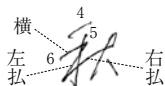
課題は段級別です。ご注意ください。



永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



短い線は筆圧を入れて太めに
長い線は渴筆や細線を生かしましょう

細さを生かす

払わずに

次画へ

太め

連綿させる

「が」「ね」は近すぎないように

位置に

留意

墨つき

たてに

横画を書く

下から当たって

雨冠の外側の線は渴筆に、中心に近い短い線はゆっくり書く

雨冠の中心に「云」の中心を通す

萩に夕風雲にかりがね

〔作者〕 心敬(一四〇六〜一四七五)

連歌師。

〔大意〕 盛りを過ぎた衰えの境地にわ

び・さびを見出した心敬の歌

より。夕暮時、風が萩を揺ら

し、暮れてゆく空には雁がね

が飛び去ってゆく。

〔解説〕

○秋の夕暮の美しさを想いながら書
きましょう。

〔用具・用材〕

筆Ⅱ和筆四号羊毛

墨Ⅱ和墨 紙Ⅱ手漉和画仙

○字幅の広狭に留意して、行の響き
合いを工夫しましょう。

○運筆に遅速の変化をつけて潤渴を
生かし、筆圧の軽重の変化により

太細を表現しましょう。

○名前は本文に添わせて、まとめま
しょう。

汝自身を知れ

汝自身を知れ

署名では姓名を記す

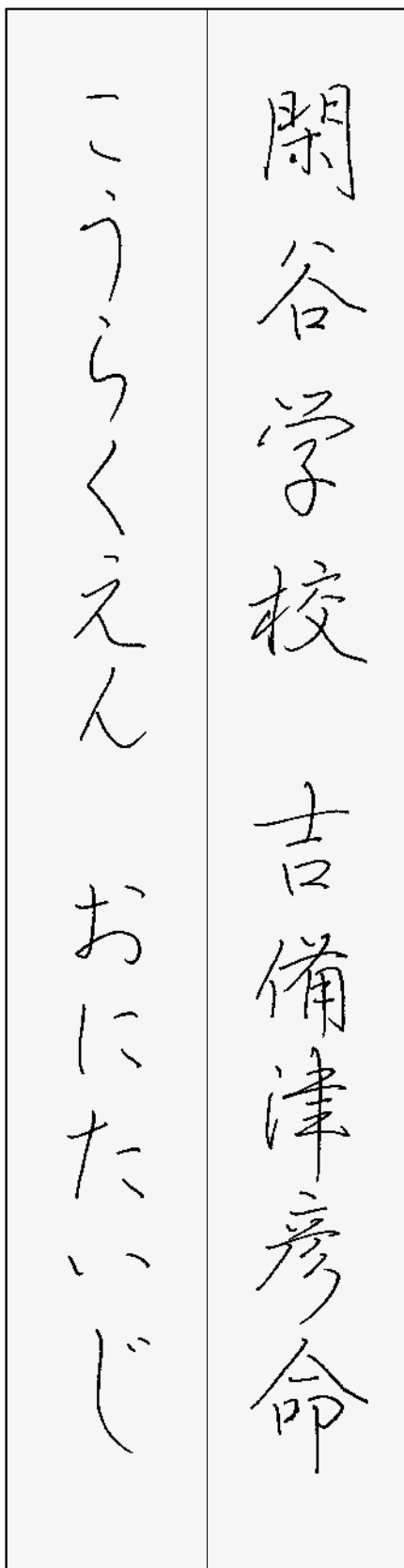
(解説は20ページ)

(用紙 半紙)

石橋鯉城先生書

ペン（1級～10級） 課題は段級別です。ご注意ください。

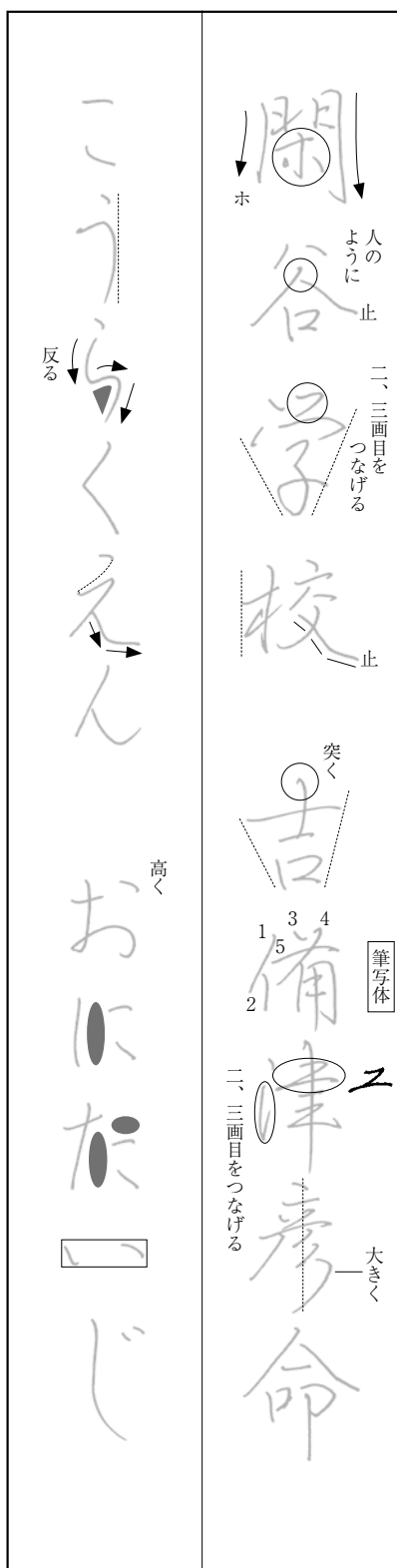
小島鳳治先生書



閑谷学校 しずたに
吉備津彦命 きびつひこのみこと
こうらくえん おにたいじ

〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、
ボールペン インクは黒色
（鉛筆は不可）
〈用材〉 不二硬筆用紙2行書き

〈解説〉



〃 一字書って面白いな〃 — 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〃 何かこの字への想を込めて書こう〃 オモイ

(随意課題)
段級に関わりなく出品できます。
評価は天と地になります。

〈平がな一字書〉(参考作品)

(用紙 半紙)

〈漢字一字書〉(参考作品)

(用紙 半紙)



ま (この平がなの原字は「末」の草書形)

ま…「㇏」は平仮名の「こ」を平らに、しかも上部を長く。「㇏」の横画を一気に二画書く。腋を開いて左方に展開し、結びは丁寧に置くように。平仮名では筆の鋒先が先走らないように気をつける。鋒先が走るとトゲくしくなるようです。縦画は、見ての通り①②③の三呼吸で筆を運んでいます。



縦画の助走部分

縦画は、見ての通り
①②③の
三呼吸で筆を運んでいます。



末 (読みマツ・すえ 意味) 物事の最後。端。果て。

末…縦画は、横画の中心部で、先ず鋒先を置き、沈めながら身体を引き手指で押し引くように書きます。跳ねは一度軽く点を打ち押して行き、鋒先を閉じる。点の二つは「ハ」のように。一本の線、一つの点にもドラマ(動き)を作る。墨色にも配慮して飾れる作品として完成させよう。

〈用具・用材〉

筆 特選永昌 墨 松鶴齋寿 用紙 松雪

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

石橋鯉城先生書

課題解説

漢字半紙(誌友)五段……………(2ページ)

備中松山城(びっちゅうまつやまじょう)

〔解説〕

○岡山県高梁市。天守が残る日本で唯一の山城。雲海に浮かぶ天空の山城として全国的に人気がある。

○基本的な行書の書き方を学ぶ。

○それぞれの文字の重さを捉えて半紙五字作品を仕上げよう。

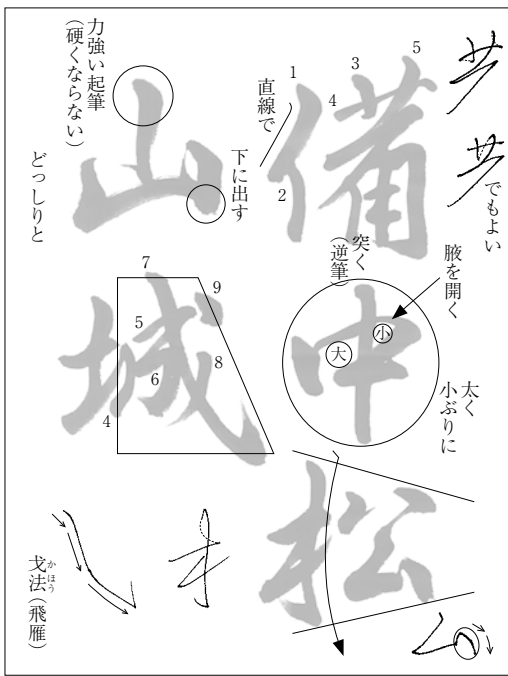
備…人偏の1画目は直線で。隣の3・4・5画目は横・たて・たでの順でも良い。中…縦画は中心ではなく右に寄せる。起筆は、前の画を受けて逆筆で入る。

松…概形は横長になる。木偏の縦画は反りながら軽快に。公の3つの点は鋒先を利かせながら流れ良く。最終画の点はしっかり鋒を動かす。

山…丁寧な運筆で力強くどつしりと。

城…「成」は縦画から。寝かさずに立てるように書き、「成」は台形に作る。戈法は鋒を立てて動きをつける。

〔用具・用材〕筆…永昌四号 墨…油煙和墨 紙…松雪



漢字半紙(四段)初段……………(3ページ)

鳴釜神社(なるかましんじ)

〔解説〕

○桃太郎の原典がある地といわれる吉備国。岡山市吉備津神社では、鬼にまつわる吉凶占いの神事が行われている。

○行書の基本的な書き方を学ぶ。

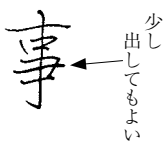
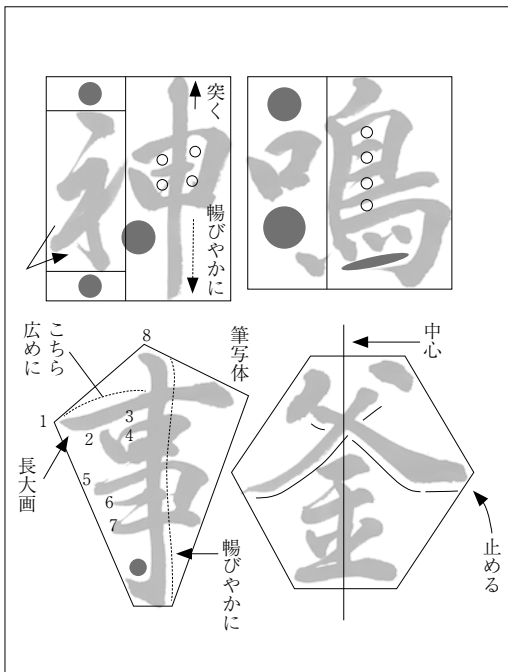
鳴…口偏と鳥の組合せ。「口」の位置に注意。鳥の横画はリズムよく書くと等間隔になる。点4つもリズムよく下がらないように打つ。

釜…3画・4画目の払いを暢びやかに運筆し、中心を揃える。

神…示偏と申の組合せ。行書の示偏の書き方をマスターしよう。草書も同じ形となる。

事…1画目を一番長くする。6画目が5画目を突き通さない形は筆写体。最後の縦画は体を使って暢びやかに書こう。

〔用具・用材〕筆…永昌四号 墨…油煙和墨 紙…松雪



習藝斎（しゅうげいさい）

〈大意〉 特別史跡旧閑谷^{しずたに}学校内の農民たちも学んだ、教室として使われた施設。

〈解説〉

○三文字を楷書でバランスよく書く。

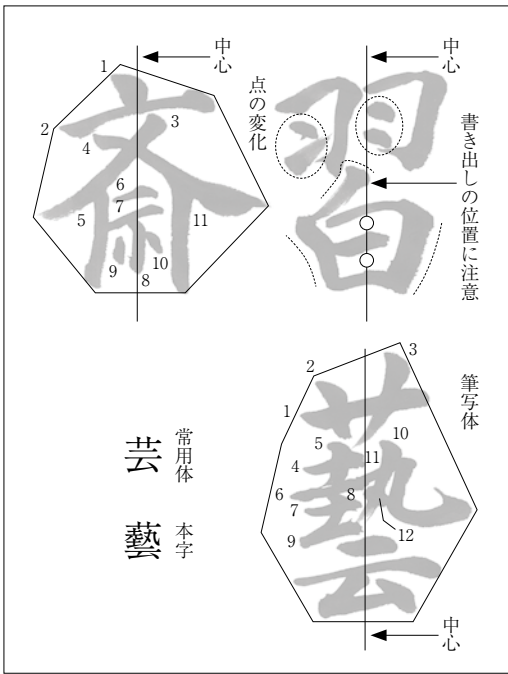
○鋒先の位置を確認しながら、きりつとした書線で表現しよう。

習：羽と白の組合せ。羽の点の変化に注意。白の1画目は羽の中から書き始め、下をつぼめて引き締める。

藝：芸の本字の筆写体。「**本**」が土2つになる。全体に大きくなりすぎないように引き締めた。

斎：中心を通し、筆順に気をつけよう。3画目と4画目の払いを暢びやかに。

〈用具・用材〉 筆Ⅱ永昌四号 墨Ⅱ油煙和墨 紙Ⅱ松雪



「秀歌之體大略」

山河耳風の可^か介^け多^たる志^し可^から美^み盤^はな可^かれもあへぬ紅葉成希理

解説 福原溪春先生

〈読み〉 山河に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり

〈大意〉 山あいの谷を流れる川に風が架けた流れ止めの柵（しがらみ）は、流れ

きらずにいる紅葉だったのだなあ。

〈出典〉「古今和歌集」303 春道列樹

〈解説〉

○墨色の変化に留意する。

・渴筆部は墨をおくようつもりで、ゆっくり運筆する。（筆を押えつけない）

・墨が足りない時は、加墨してもよい。

○疎密の変化に留意する。

・「可介多る」「成希理」は連綿線を短くして密につくる。

・「志可ら美盤」も密の手法で「美」に「盤」を入れ込むようにする。

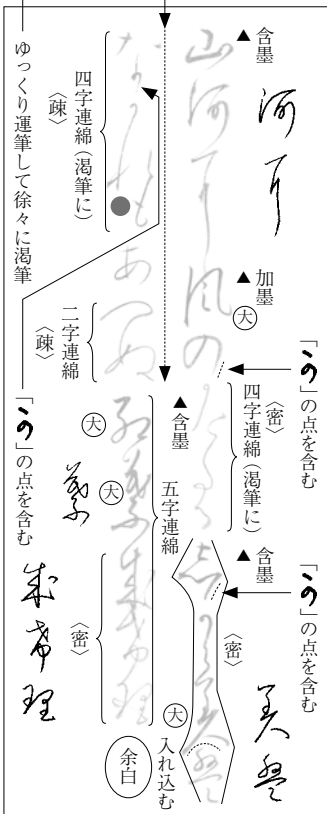
○変体仮名、漢字の草書を理解してから書こう。

・「のう」「あう」「なり」「なり」…前の文字の終画を延ばして「可」の1画目にする。

・変体仮名の「**盤**」↓盤など。

・草書では「葉・成」など。

○5ページの「短冊の書式」を理解して全体の構成を考える。



かな半紙(四段〜初段).....(6ページ)

美可^{みか}のはらわ支^きてな可^が留^る、いつ三可^{みか}者^がいつみきとてかこひ志可^し留^るら无^む

《読み》みかの原わきて流るゝいづみ川 いづみきとてか恋しかるらむ

《大意》みかの原を分けて、湧き出て流れる「いづみ川」ではないが、いつ見た、(あの人に)いつ逢ったということで、どうしてこんなに恋しく思うのだろうか。

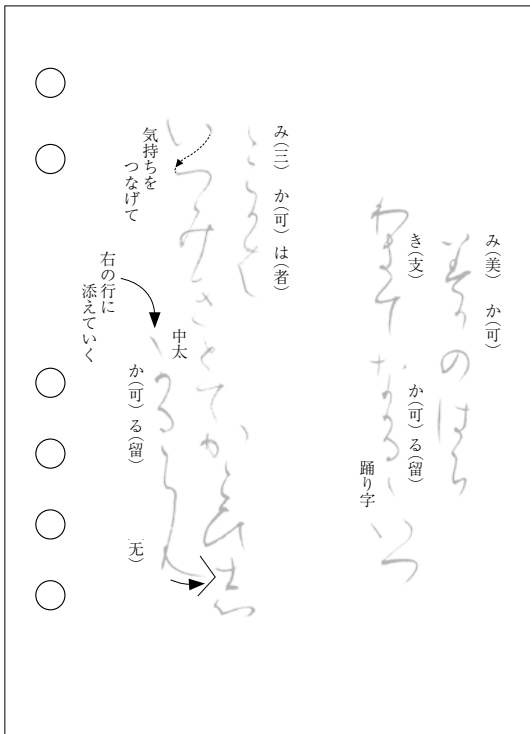
《出典》百人一首 27 中納言兼輔

《解説》

○今月の和歌は、言葉や音の繰り返しがあるため、構成をどうするのか、どの文字(変体かな)を使えばよいのか、大変思案しました。

○連続して出てくる「いつみ」は位置をはなすようにし、3つあるミの音は「ゞ」「ゝゝ」「み」で書きました。4つあるカの音は、行の幅が欲しい一箇所に「か」を使い、あとの三箇所は筆の運びを考慮して「く」にしています。

《用具・用材》筆Ⅱかな用小筆 紙Ⅱかな用半紙 墨Ⅱかな用和墨



※左はしには、教室名・氏名を入れます。

漢字条幅(1級〜10級).....(9ページ)

維乾元元年歳次戊戌(これけんげんがねんさいじぼじゅつ)

《解説》

○『祭姪文稿』の冒頭部分。原帖と参考手本の両方を見ながら臨書しよう。

○中鋒(筆鋒が線の中心を通る)、藏鋒(逆入して鋒先が表れないようにする)、円筆(丸味を帯びた筆遣い)による重厚な線を習得しよう。

維…ふるとり(佳)の筆写体。偏と旁に筆圧の違いをつける。

乾…旁をしとする筆写体。

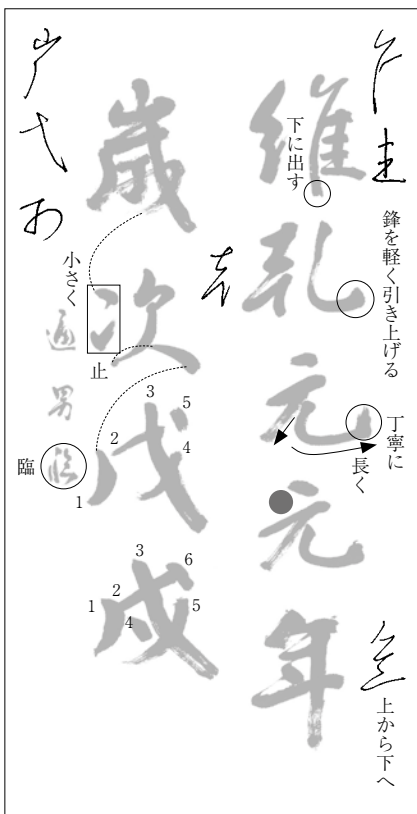
元…「乾・元・元」と最終画が似た字が続くが変化をつけたい。上に向かって撥ねても筆脈は下に繋がるように。

年…縦画は、強い筆圧・速い線で大胆に。

歳…上を山とする筆写体。

戊戌…「歳・戊・戌」は戈法の連続。中鋒・藏鋒・円筆を確認しながら重厚に。

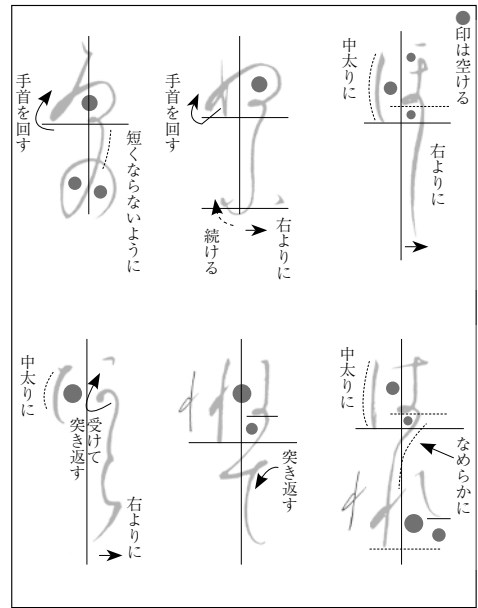
《用具・用材》筆Ⅱ永昌条幅 墨Ⅱ和墨 紙Ⅱ中国画仙



※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

かな半紙(1級〜10級)

(7ページ)



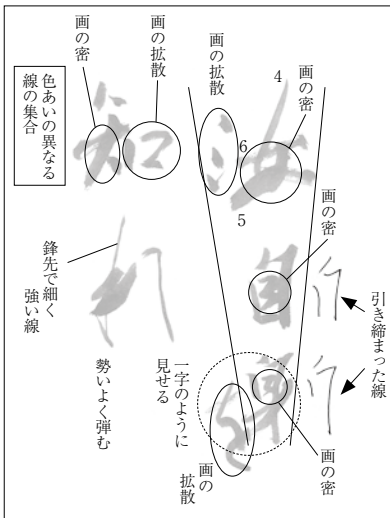
ほし はれ
ぬふ ねて
の 阿ら

安東聖空書「梅雪かな帖」より

※単体の変体仮名です。
くり返し学習してください。
古典学習の基本となります。

新和様(1級〜10級)

(12ページ)



汝自身を知れ

〈大意〉
古代ギリシアの小高い聖域デルフィ山アポロン神殿の入り口に掲げられている言葉。哲学的思考の出発点を現すソクラテスの語。
漢字の多い課題です。文字数が少ないので、大きく暢びやかに明るく書きたい。点画の書く時の流れと、点画や偏旁に見る流れと間に注目して収斂・拡散に留意した作品を作ります。書く時も、水膨れしないように引き締まった線です。

「知れ」は色合いの異なる線が集まっています。筆の面、向き、浮沈、速度の違いを感じて書いてみましょう。

〈用具・用材〉 筆Ⅱ長鋒羊毫(中国筆)
墨Ⅱ「呉竹」(信印) 半紙Ⅱ中国半紙

◆12月号課題予告

漢字半紙

誌友Ⅴ五段 再建熊本城

四段Ⅴ初段 阿蘇五岳

1級Ⅴ10級 加藤清正

かな半紙

誌友Ⅴ五段 東路乃佐の、布な橋可介て能三お无

四段Ⅴ初段 ひわ多るを知人のなき

山里は冬ぞさびしさまさりける人

めも草もかれぬと思へば

1級Ⅴ10級 二字連綿

扁額

誌友Ⅴ初段 未定

漢字条幅

1級Ⅴ10級 人心方期戡穀(祭姪文稿)

かな条幅

誌友Ⅴ10級 咳の子のなぞなぞ遊びさりもなや

新和様

八段Ⅴ初段 未定

1級Ⅴ10級 未定

ペン

八段Ⅴ初段 治山治水工事や水田開発に力を注

ぎ熊本城を築いた清正は領民に慕

われた

雲海 草千里 烏帽子岳

イルカ カルデラ くまモン

※課題は変更になることがあります。